

広報

うわじまちくしょうぼう

第97号

宇和島地区広域事務組合
消防本部編集
宇和島地区防火協会発行

旬の話題はこちらから

Instagram
公式 宇和島消防



@FDUWAJMA

令和7年秋季火災予防運動

令和7年11月9日(日)～11月15日(土)



急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし

2025年度全国統一防火標語

日本損害保険協会は、「防火ボスターの作成」や「自治体・業種への経路消防自警隊の啓蒙」を通じて、全国の防火・防炎力強化を図っています。

11月9日から15日まで秋の火災予防運動が実施されます。



令和7年上半年期(1月1日～6月30日)に発生した火災は12件(前年比2件減)、1万人あたりの出火率も前年の1.74件から1.53件と昨年に引き続き減少傾向にあります。

火災による死者は令和5年から発生していません。また、負傷者は2名(前年比±0)となっています。火災種別では、建物火災が最も多く6件(前年比1増)、次いでその他火災が5件(前年比2減)、車両火災1件(前年比1減)となっています。火災原因は前年同様「たき火」が最も多く5件で、次いで「電気配線器具」が2件、「ライター」「風呂かまど」「摩擦によるグリス発火」「いろいろ」「不明」各1件などとなっています。

急増しています！リチウムイオン電池火災

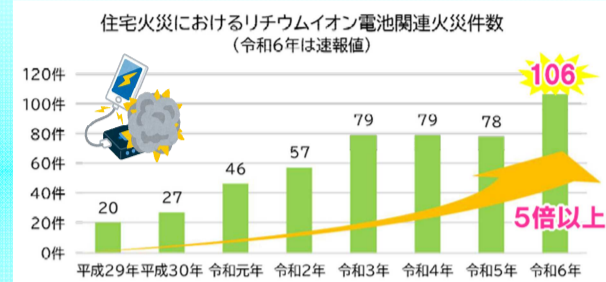


全国的にリチウムイオン電池に起因する火災が、急増しています。

近年、電気器具類を原因とする火災(家電製品や電気配線を原因とする火災)が増加しており、総務省が発表した火災統計によると平成25年は1,431件でしたが、令和6年には2,022件と約3割増加し、コンロ2,637件に続く住宅火災の出火原因となっています。また、東京消防庁のデータでは、住宅火災におけるリチウムイオン電池関連の火災件数が、令和6年速報値で統計を取り始めた平成29年の5倍以上となっており、令和7年は昨年を上回るペースで推移しています。

【リチウムイオン電池事例】

▽落下・浸水したモバイルバッテリーを使用していたところ火災となった。
▽モバイルバッテリーが暖房器具の温風により加熱されたことで火災となった。



【注意すべき点】

- ▽充電している時に熱くなったり充電できなくなったものは直ちに使用を中止する。
- ▽膨らむなど変形しているものや長年使っていないものは使用を控える。
- ▽温度の高い場所には放置せず、就寝中や外出して留守にしている時は充電を避ける。就寝中に発火した場合は気づきにくいので、布団などに燃え移るおそれがあるため特に注意が必要
- ▽万が一、発火した場合は、大量の水をかけて消したうえで、バケツなどの水の中に入れて、消防に通報する。
- ▽廃棄する場合は、家庭ゴミとして出さない。ゴミ収集時に火災につながるおそれがあるため、各市町の家庭ゴミ回収方法をご確認下さい。

救急件数が増え続けています！



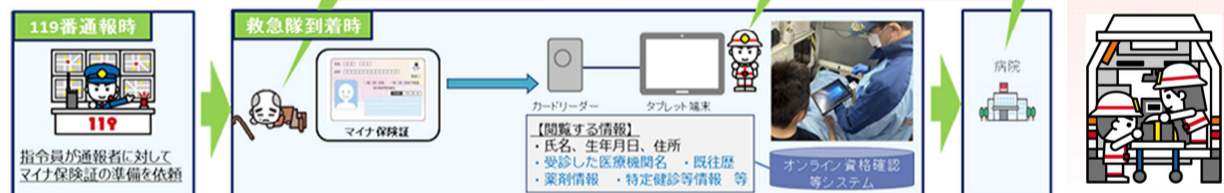
令和7年上半年期中の出場件数は**2,803件**(前年比244件増、一昨年比468件増)、搬送人員は2,478人(前年比139人増、一昨年比375人増!)と上半期だけでも年々増加しています。事故種別ごとにもみると、急病が1,895件で全体の7割近くを占め、次いで一般負傷445件、転院搬送288件などとなっています。また、搬送人員を傷病程度別にみると、**軽症が747人で全体の3割弱**となっています。もし、救急車を呼ぶか迷ったら…「#7119」に電話すると救急電話相談を受けることができます。医師や看護師などが24時間対応し、電話口で傷病内容を確認したうえで適切なアドバイスを行ってくれます。また、**10月1日から全国一斉にマイナ救急が開始されました**。救急隊員が、傷病者ご本人のマイナ保険証から正確な医療情報を確認し、搬送する病院の決定や救急車内での処置、病院到着後にすぐに治療を始めるための準備に役立て、ご本人や付き添われる方の負担を軽くすると共に、傷病者の方がより適切な処置を受けるために活用します。詳しくは、宇和島消防本部警防課(20-0119)へお問い合わせ下さい。

マイナ救急の流れ

自分の病歴や飲んでいる薬を救急隊に正確に伝えることができる

内着な搬送先病院の選定や適切な処置が実施できる

搬送先病院で治療の事前準備ができる



救急の日のイベントを開催しました



9月9日うわじまさいや広場にて救急の日のイベントを行いました。心肺蘇生法などの応急手当体験コーナーや、救急車をはじめとする消防車両の展示、梯子車の搭乗体験コーナーを設け、多くの子ども連れの方々にご来場いただきました。応急手当体験ブースでは、万が一の時のために心肺蘇生法を体験し、救急隊員の解説や実体験の話を熱心に聞かれていました。また、市立宇和島病院協力のもと、市立宇和島病院DMAT隊員も参加し、大規模災害等で活動するDMAT車両の展示や、普段聞くことができない災害現場での活動について知っていただく機会となりました。これからも、地域の皆さまとのふれあいを通じ、救急隊の活動や必要性を理解していただく機会として、救急の日のイベントを開催して参ります。

令和7年度愛媛県総合防災訓練



大雨と地震による複合災害を想定した令和7年度愛媛県総合防災訓練が、9月7日宇和島市大浦地区を主会場に実施されました。行政機関や消防、自衛隊、警察、海上保安庁など104機関から約6,300人が参加し、対応力の向上と連携強化を図りました。

訓練は、前日からの大雨により大浦地区に避難指示が発令される中、土佐湾を震源とする南海トラフ地震が発生し、市内で建物倒壊やライフラインの寸断、各地で大規模な土砂災害が発生するという想定で行われました。宇和島港頭用地(大浦地区)では、土砂による建物倒壊や車両埋没事故、大型バスを含む交通事故による多数傷病者発生を想定した訓練が行われ、自衛隊・海上保安庁・愛媛県防災航空隊の3機のヘリコプターによる救出活動も展開されました。さらに、道路啓開、ライフライン復旧、ドローンによる物資空輸など多様な訓練を通じて、関係機関相互の情報共有や連携の重要性を確認しました。

